



1Fバイクビルダーの工房&ショップ越しに建物外観を見る。1F店舗のライフスタイルイメージとメンズサロンの相乗効果は大切な要素。2Fの天井の鉄骨梁の連続性が、他にない店舗イメージを外部に表現します。屋上へ上がる階段室の突起も外観の印象の決め手。夜はらせん階段をライトアップします。



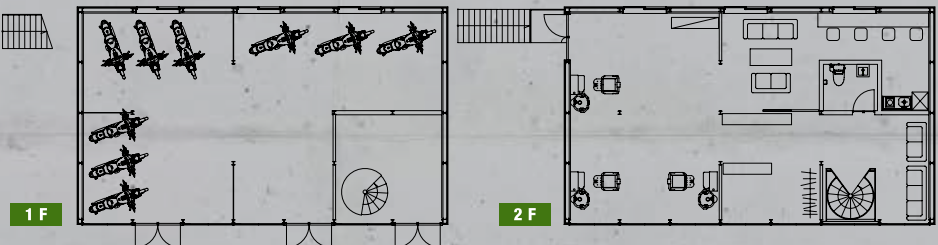
メンズサロンの内観CG。デイトナハウスの特長であるつや消し黒の鉄骨フレームを利用して、オリジナルのカット台を製作する予定です。鉄骨フレームの内部にはガルバリウム鋼板の壁面を施した逸品。グリーンとのコントラストも絶妙です。スパンを飛ばすためのトラス梁(ジグザグ鉄筋の梁)が、空間のアクセント。



LGS
×
48
PANELS

FLOOR PLAN

7スパン×4スパンの均整のとれた空間を示す平面図。3スパン飛ばした柱の無いこの空間こそが鉄骨造の持ち味。基本2スパンしか飛ばせない木造建築ではこうはいきません。また、その空間を成立させるトラス梁は今ではすっかり見受けられなくなりました。その手作り感覚が空間のアクセントになるのです。大量生産品にありがちな既視感を超越した、ハードボイルドなこのことが優しい空間性。それが魅力なのです。



1F

2F

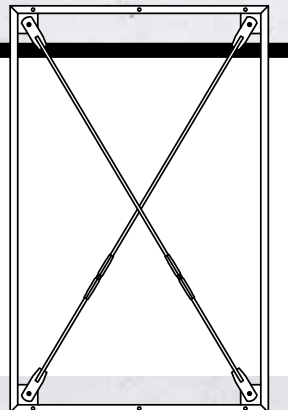
Theme

男の身だしなみの発信基地
デイトナハウスでつくるメンズサロン

今静かなブームとなりつつあるメンズサロンやバーバー。
デイトナハウスの鉄の素材感なら、そのコンセプトを増幅してくれます。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



男性でも美容院で髪を切ることが珍しくなくなった昨今なのですが、女性と並んでセット台に座るというのに抵抗のある人も多いことでしょう。そんな男たちの深層心理を反映して、ようやく男専門の美容・メンズサロンや、従来とは一線を画したバーバーなどが静かなブームになっています。今回は岡山県津山市に実際に計画中のメンズサロンをご紹介します。ながら、デイトナハウスが持つ鉄の素材感と日常の身だしなみの関係について考えてみたいと思います。

この店舗は、複合店舗です。1Fには男性のライフスタイルを進展させる業態の別のテナントを想定。今回のプランではカスタムバイクビルダーの工房兼ショップを設定してみました。とはいえ焙煎系コーヒーショップやアウトドア系のショップにもうってつけで、様々な可能性を秘めています。外観は余分な虚飾を排したブラックボデイ。ファサードのガラス面が2F店舗の様子を外部にさりげなく伝えます。天井の鉄骨梁の緊張感と相まって、男性がグッとくるハードボイルドなイメージが店舗の外まで滲み出てきます。サロン内部は鉄骨フレームをそのまま利用したカット台をオリジナルで製作。この店はカットが終わった後や待っている間も、同じ趣味の仲間が集まる場所にもなりません。ライフスタイルやファッションを充実させる生きた情報がこのには集まってくるのです。

建物の骨格そのものが、室内空間のメリハリを構成するLGSシステムだからこそ表現できる、ワイルドな装い。まさにデイトナハウスはメンズサロンにうってつけの建築工法なのです。1Fテナントとの相乗効果も加味されれば、さらにパワーアップした男の身だしなみとライフスタイルを発信する基地になることでしょう。

INFORMATION
LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI